

視 察 調 査 報 告 書

委 員 会 名	議会広報委員会
参 加 者	委員長 加藤 義幸 副委員長 小田 高之 委 員 新免 悠香 野々山 雄一郎 野島 さつき 井町 圭孝 内田 実 神谷 寿広
視 察 日 時	令和元年5月15日(水) 10:15~11:45
視 察 先 ・ 概 要	三重県松阪市 人口:163,863人 世帯数:70,574世帯 面積:623.58 k m ² 特記事項:住みよさランキング2018(東洋経済)総合376位 (安心292位、利便352位、快適523位、富裕392位、住居377位)
視 察 項 目	「議会広報」について
視 察 概 要	1 経緯について (1) 平成24年11月 議会基本条例制定 (2) 平成26年8月 広報広聴委員会設置 (協議又は調整を行うための場) (3) 平成27年6月 市議会だより「みてんか」としてリニューアル (フルカラー、横書き、とじ穴なし) 2 広報広聴委員会について (1) 所掌事務 ・市議会だより(年5回)の編集・発行に関すること ・議会報告会に関すること ・市民との意見交換会に関すること ・市議会ホームページに関すること ・その他広報広聴に関すること (2) 内容(平成30年度実績) ・打ち合わせ会議(非公開) 19回(市議会だよりの編集等) ・広報広聴委員会(公開) 11回(議会報告会、行政視察の決定) (3) 市議会だよりの改善点 ア 平成29年度 ・声の広報を開始(目の不自由な方への音訳) ・市ホームページへ電子ブックで掲載 ・とじ穴用の目印をつける ・市公式SNSへの掲載 イ 一般質問記事に、QRコード(ユーチューブのURL)を掲載 (4) 市議会だよりの課題 ・市の広報紙との整合性 ・表紙の選定

	<ul style="list-style-type: none"> ・配布方法の見直し等 (5) 議会報告会 <ul style="list-style-type: none"> ア 開催時期 <ul style="list-style-type: none"> ・平成25年から年2回 イ 運営体制 <ul style="list-style-type: none"> ・1班7人の4班体制（議員定数28人） ・資料の作成、会場設営、受付、進行等を議員が担当 3 その他議会広報活動について <ul style="list-style-type: none"> (1) 議会PR番組の作成 (2) 議会のトリセツの作成 <ul style="list-style-type: none"> ア 経緯 <ul style="list-style-type: none"> ・投票率（46.98％）の低かった平成29年の市議会議員選挙後に協議開始し、議会改革特別委員会で11回の協議を重ね平成30年9月に刊行 ・67,000部、1,132,660円、A5、32ページ、4色刷り イ 効果 <ul style="list-style-type: none"> ・議員、事務局職員が、市民目線での議会とは何かを再認識することができた ・全戸配布や議場見学に訪れる団体や小学生、行政視察に訪れる他議会への説明手引書としても活躍 ・市の受付では、半年で約50冊配布された ウ 課題 <ul style="list-style-type: none"> ・配布後の具体的な検証は行っていない。4年後をめどに見直しを実施。
<p>所 感</p> <p>視察しての感想や岡崎市への提言など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・特筆すべき取り組みとして、議会広報を細部にわたり委員会が作成する体制、年2回の議会報告会の継続的な取り組み、議会をわかりやすく説明する冊子「トリセツ」の発行が挙げられる。各具体的な取り組みは参考になるものであったが、他方で、これらの取り組みに時間とリソースを割いているにもかかわらず、うまく市民に伝わっていないと感じている議員の方々の肌感覚は傾聴に値すると感じた。それは、市民側が議会に対して抱くニーズ、希望、要望がどのようなものであるのかをしっかりと把握し、どこにどの程度リソースを割くのかは、都度議論していく必要を推察させられるものであった。 ・議会広報紙について。表紙を地元松阪工業高校デザイン科に依頼し、手に取りやすいポップなイラストを使用している。ホームページ掲載の際には、29年度より目の不自由な方への音訳、広報紙を電子ブック化するなど、情報媒体の特性やさまざまな人が閲覧可能な手段を実践している。30年度には一般質問記事にQRコードを掲載し、ユーチューブ視聴を実現した。以上、本市への提言につながる事例である。 議会報告会について。25年度から実施し、課題解決を行いながら、現在、議会活動報告と意見交換の2部制で実施されている。議会報告会はあくまでも個人の意見は控えなければならないため意見交換会を第2部で実施するが、案件によっては参加者からの意見を聞くのみの会になる場合もある。 その他。「松阪市議会のトリセツ」を作成。議会とは？の問いに答

える子供向けの冊子であるが、非常に内容がわかりやすく精査されており、子供はもちろんさまざまな世代が議会の理解を深められるすぐれた冊子である。この「トリセツ」においては、本市のキッズページに内容や表現方法等を参考に取り入れたい。

・市民にとって市議会の意義や活動内容を知ってもらうことは、市民と市議会の絆を深める基本であり、また、小学生や若者にも議会に関心を持ち理解してもらうため、普段の生活に議会がかかわっていることを物語調で、イラストを使用し、お母さんと6年生のはなちゃんとの会話形式で、市議会「トリセツ」(取扱説明書)を発行し、全戸配布(6万5千世帯)するとともに、市の関係機関に配置した。とてもわかりやすく親しみを感じられるものであり、市民へのアプローチの方策として画期的なものである。若い世代層への浸透を図る意味で、事業所の休憩室や談話室などにも設置すれば効果はより高まると思う。

・市議会は市長に対し、活動、取り組み、その成果について、メディアを通して積極的に発信し、説明責任を果たすとあり、情報提供及び情報共有に努めなければならない。報告会において、共有する側の議員が、地元の意見を聞いて、問題点、共通点をどれだけ理解し、議案として取り扱っていくかにかかわり、責任をもって業務としてのプロセスを具体的にしていくことが大切である。本市において、報告会を開くにあたって注意すべきは、班編成、スケジュールには十分に注意し、計画を立てていただきたい。

・説明の中で「市民の意識を変えるのも広報広聴委員会の役割」との発言があったように高い意識の中で改革に取り組まれていると感じた。また「議会のトリセツ」は大変よくできており、本市議会で進めているキッズページのバージョンアップの際には参考にすべきと考える。

・市議会だよりの表紙を市内の工業高校デザイン科の学生に依頼しており、大変斬新な図柄で、「これは何だろう」と思わず手にとって見たくなるものに仕上がっている。市民参加は、話題性もあり本市でも取り入れたいと思う。

「議員は何をしているのかわかりにくい」との声を時々耳にする。議会報告会や意見交換会を行うことは、議員自身もわかりやすく伝えるための勉強が必要であり、議員力のアップにつながると思う。市民に開かれた議会にするための努力は見習うべきと感じた。

「議会のトリセツ」は、とてもわかりやすくまとまっており、無関心層にも見てもらえるものと思う。開かれた議会になるためにさまざま取り組みんでおり、大変勉強になった。

・議会の報告が3カ月後になる(3月議会 6月1日発行)のは「議員が責任を持って作成する」というのに必要な時間だと答えられていた。確かに全てを手掛けるには必要な時間かも知れないが、報告としては、より早く市民に伝えるべきだと思うのと、次の議会が始まってしまうので、議会の開催日程や請願・陳情の受け付け締め切り日などが事後や掲

	<p>載できない状態ではどうかと思うため、本市の2カ月後発行は堅持しつつ議員の手で作成できるスケジュールを練らないといけないと思った。</p> <p>とじ穴なし・印づけで予算が10万円削減できているとのことで、本市も検討事項に挙げるべきではと思った。</p> <p>一般質問記事にQRコードを掲載して動画につなげるのはよい試み。本市も検討してはどうか。</p> <p>『議会のトリセツ』は冊子としてもホームページでの電子ブックとしても見られるようになっており若い世代へのアピールツールとして活躍しそう。本市ではキッズページの取り組みが始まるが、大いに参考になると思う。</p>
<p>委員長の総括</p>	<p>議会を幅広い世代に知ってもらうには、情報発信するだけでなく議員側から市民にアプローチしていくことが大切であると感じた。本市議会では市民に近づくために広報紙の表紙写真を議員みずから市民参加のイベント等に出向き撮影することとしたが、学生等とのコラボにより表紙を作成することも議会を知ってもらう絶好の機会であろう。松阪市議会の議会の「トリセツ」については、とてもわかりやすく編集されており、小学生から大人まであらゆる世代の人に手にとってもらえるように仕上がっている。本市議会もキッズページをホームページ上に立ち上げたが、更新時には、大いに参考にしたい。また4年に1度は紙媒体での発行も検討すべきと考える。</p> <p>意見交換会等は、本市議会は現状でよいと思うが、今後においては、学生のみならず、各界各層の諸団体との開催も検討すべきと考える。</p>